

秋田
エコマップ
シリーズ

⑦

秋田市 野鳥 マップ

Akita
Bird Watching
Map



野鳥は、他の生き物たちと様々なつながりを持ちながら、自然と共に生活しています。

同じように、私たち人間も、他の生き物と深い関係を持ちながら、自然の恵みによって生活しています。

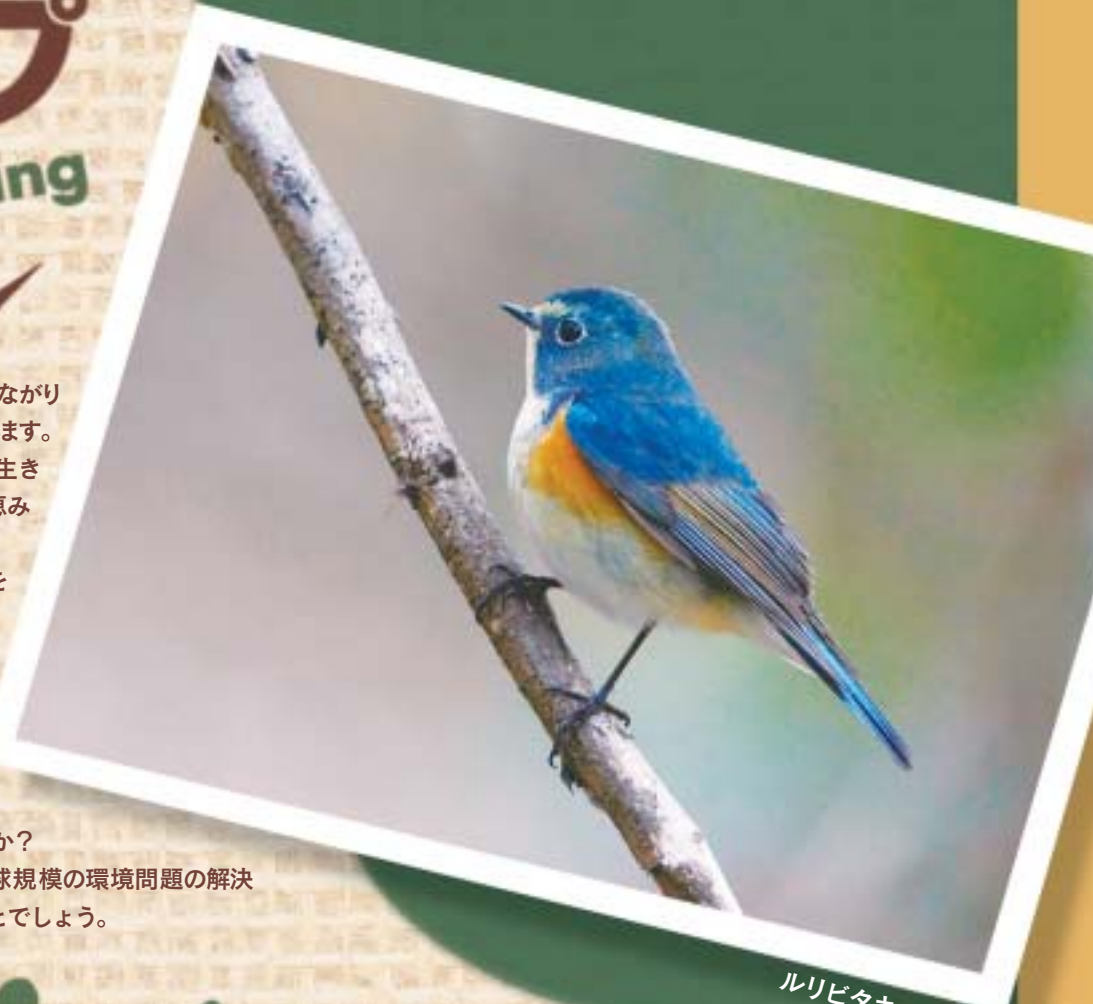
野鳥に親しみ、野鳥を知り、自然を感じることは、野鳥にも人にとってもかけがえのない環境を守り、回復し、創ることにつながります。

バードウォッチングを通じて自然の中に身をおき、野鳥と私たちが共に安心して暮らせる環境はど

のようなものか、考えてみませんか？

きっと、このことが地球規模の環境問題の解決にもつながっていくことでしょう。

や…野外活動、無理なく楽しく
さ…採集は控えて、自然はそのままに
し…静かに、そーっと
い…一本道、道からはずれないで
き…気をつけよう、写真、給餌、人への迷惑
も…持って帰ろう、思い出とゴミ
ち…近づかないで、野鳥の巣



ルリビタキ P14 No.177



1 バードウォッチングって何？

バードウォッチングには、専門的な知識や技術は必要ではありません。双眼鏡や望遠鏡を持っていなくても、いつでも、どこでも、だれでも気楽に始めることができます。窓から見える木々に小鳥がきたら目を向けること。毎日の通勤通学の途中に野鳥をウォッチングすること。野鳥が身近にいることを感じ、野鳥に目を向け、野鳥の声に耳を傾ける余裕と感性を絶えず持ち続けること。そうすれば、野鳥たちのほうからいろいろなおもしろい世界を見せてくれるはず。野鳥と接することから科学的な興味を満足させたり、絵を描いたり、あるいはのんびりムードを楽しみ、ストレスを解消させるなど、いろいろな楽しみ方があると思います。あなたなりの楽しみ方を見つけてください。

2 バードウォッチングの準備

【道具】

特別な準備がなくても、目と耳、感性豊かな心で野鳥や自然を楽しむことができますが、双眼鏡などがあれば野鳥を遠くから、驚かさずに観察できます。

● **図鑑・ノート** 出会いの記録(いつ、どこで、どんな種類、どんな場面に会ったのか、感想、疑問など)、わからない鳥の特徴を書きとめ、図鑑と照らし合わせてみましょう。

● **双眼鏡** レンズの口径が大きいほど倍率や視野、明るさで有利なことが多いのですが、その分重くなるのが一般的です。持ち運びや長時間使うことも考慮して、自分にあったサイズを考えましょう。倍率は7倍から10倍程度、対物レンズの直径が20mmから40mmくらいの機種がよく使われているようです。また、さらに大きく観察したい時などは望遠鏡を使うと便利です。

● 双眼鏡の使い方

1. 目の幅を合わせます

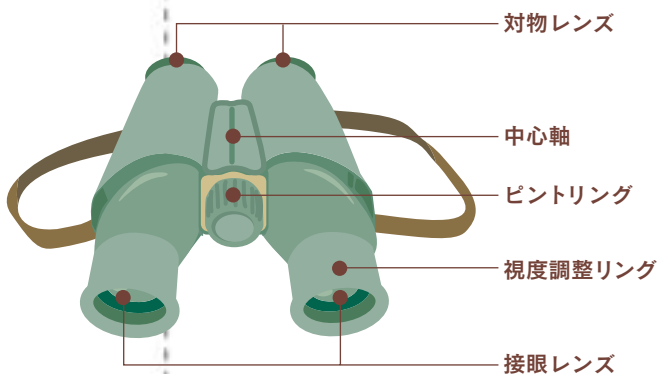
双眼鏡は中心軸から折れ曲がるようになっています。のぞきながら円が一つに重なるように調整します。

2. 左右の視力の差を調整します

左目だけで見て、中央にある**ピントリング**を回し、目標物がはっきり見えるようにピントをあわせます。次に右目だけで見て、右側にある**視度調整リング**をまわし、ピントを合わせます。これで視力の差が調整できました。

3. ピントを合わせます

中央の**ピントリング**を回し、目標物にピントを合わせる練習をしましょう。遠くの看板の文字などを見るようにすると合わせやすいです。

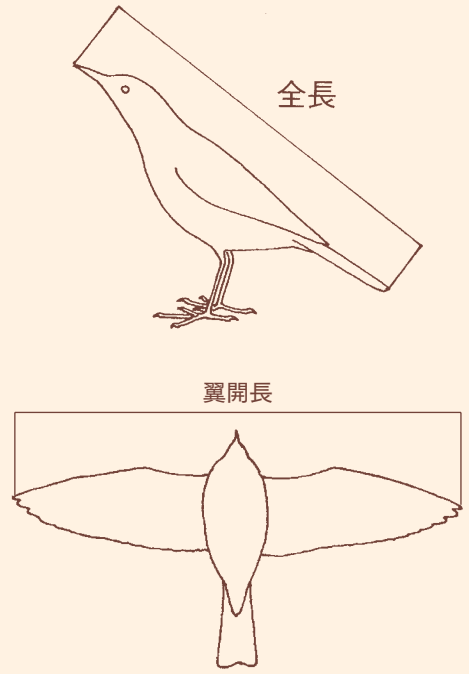
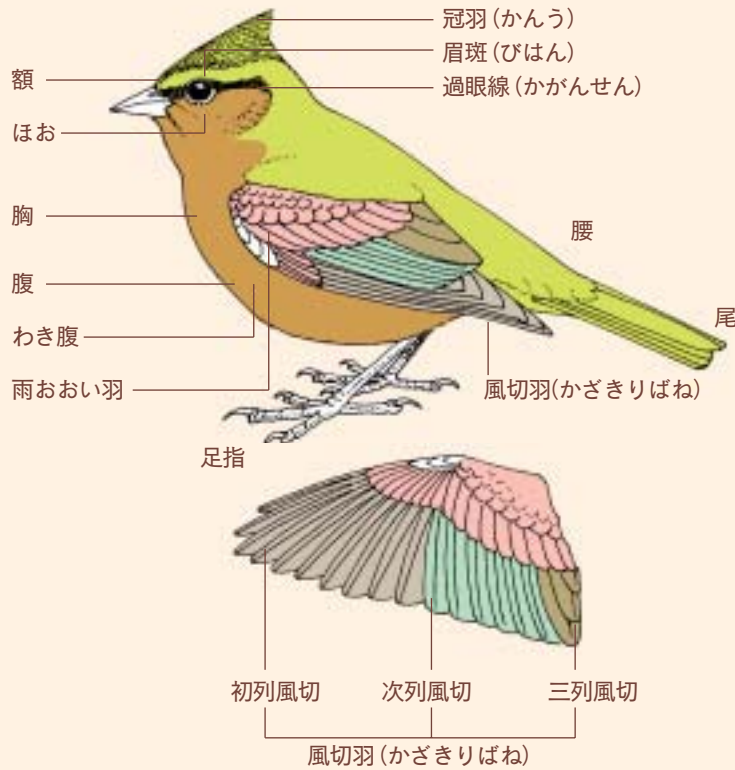


【服装】

鳥類は色を認識することができるので、雪の日以外の白など、自然界にない色は目立ち、野鳥を警戒させることになります。自然の色に溶け込めるカーキ色、オリーブ色、レンガ色などの、アースカラー系のコーディネートがお勧めです。人間の都合からいえば、汚れてもよいもの、比較的ゆったりしたスタイルのものの方が動きやすいので何かと便利です。暑い所へ出かけるときは、帽子はわすれずに。寒いときも、毛糸の帽子などで防寒するとよいでしょう。



3 鳥の体の各部の名称



出所：財団法人 日本野鳥の会
 野鳥観察ハンディ図鑑「新・山野の野鳥」

4 野鳥の名前を調べるとき

重要なのは大きさ（くちばしの先から尾の先までの長さ：全長）です。全長は、スズメをはじめ、身近で見られる野鳥たちを目安にして覚えます。まず、ここにあげた5種類（基本5種）をいつもウォッチングしていればおのずから野鳥たちの世界のとびらが開きます。



出所：財団法人 日本野鳥の会
 野鳥観察ハンディ図鑑「新・山野の野鳥」



秋田市内で野鳥が観察できるポイント

野鳥は私たち人間にとって最も身近な野生動物といえます。多様な自然に恵まれた秋田市には、たくさんの野鳥が生活しています。市内を流れる河川や市内の各公園、また田んぼや市街地の中でもちょっと気をつけるだけでいろんな鳥たちと出会うことができます。



ヒバリ P14 No.153
「ピーチク・パーチク」のさえずりでおなじみ。



ウミネコ P13 No.116
海辺はもちろん雄物川などでもよく観察される。



アオサギ P13 No.024
臨海大橋付近で集団繁殖をしている。

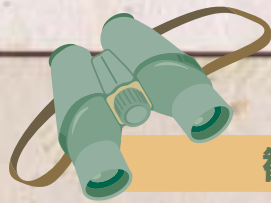


カワアイサ P13 No.054
通常は冬鳥ですが、旭川では越夏個体も観察される。



オオハクチョウ P13 No.029
秋から冬にかけて雄物川で観察できる。





観察ポイント

- ① 小泉瀧公園地区
- ② 秋田マリーナ地区
- ③ 大滝山自然公園地区
- ④ 太平山リゾート公園(仁別植物園)地区
- ⑤ 高清水公園地区
- ⑥ 千秋公園地区
- ⑦ 勝平山地区
- ⑧ 辺岨公園周辺(岨谷峡)地区
- ⑨ 雄物川河畔地区
- ⑩ 一つ森公園地区
- ⑪ 浜田森林総合公園(梅林園)地区
- ⑫ 高尾山地区



太平山リゾート公園地区



辺岨公園周辺地区

一つ森公園地区



高尾山地区



スズメ P14 No.242
頬の黒い部分がポイント。



モズ P14 No.167
“はやにえ”行動をすることで知られる。



ヒヨドリ P14 No.165
花の蜜が大好き。



ヤマドリ P13 No.072
秋田県の鳥。



オオタカ P13 No.060
カラスくらいの大きさの猛禽。



人と鳥の憩いの場・千秋公園

秋田市の中心部にあり、市民の憩いの場となっている千秋公園は、鳥たちにとっても数少ない憩いの場となっており、今までに132種の鳥たちが観察されています。

買い物や散歩のついでに立ち寄れる千秋公園で、気軽にバードウォッチングしてみませんか？



オオルリ P14 No.207
高い木のでっぺんでさえるので観察しやすい。



コムクドリ P14 No.243
夏鳥として渡ってくるムクドリの仲間。



メジロ P14 No.219
目の周りの白い輪が特徴。



チョウゲンボウ P13 No.071
近年になって市街地でも観察されるようになった猛禽。



ウグイス P14 No.192
「ホーホケキョ」のさえずりでおなじみ。

← 至保戸野

千秋

東屋
御隅櫓

稲荷神社

県民会館

秋田和洋
女子高校

ジョイナス

中土橋通り

穴門の堀

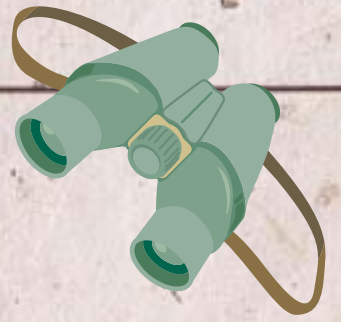
広小路

秋田中央
警察署

キャッスル
ホテル

← 至県庁

← ← ← おすすめ探鳥コース



千秋公園地区の野鳥



アオバズク P13 No.135
昆虫食のフクロウの仲間



オシドリ P13 No.032
千秋公園での繁殖の記録がある。



キジバト P13 No.126
古くから“ヤマバト”と呼ばれ親しまれてきた。



アカゲラ P14 No.149
尻が赤く、黒い背にしま模様があり、古い木の幹で見られる。



歴史のある探鳥地・高清水公園

千秋公園よりも歴史があり、加えて面積も広い高清水公園は、より多くの鳥たちが観察されており、今までに観察された鳥たちは165種となっています。

たくさんの鳥たちとの出会いを求めて、高清水公園に行ってみませんか？



キビタキ P14 No.204
黄色い眉がポイント。



センダイムシクイ P14 No.201
さえずりは「焼酎一杯グイー」。



アオゲラ P14 No.147
古い木の幹にとまる緑のキツツキ。

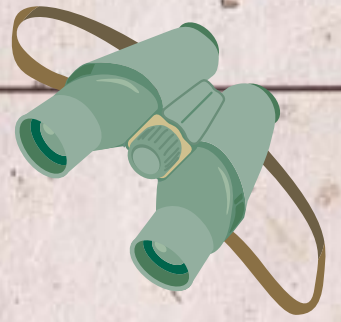


ハクセキレイ P14 No.159
白い頬、澄んだ声で鳴き、街の開けた場所で見られる。



ツグミ P14 No.190
個体によって体色にバリエーションがある。





高清水公園地区の野鳥



◀◀◀ おすすめ探鳥コース



ハシブトガラス P14 No.252
カーカーと澄んだ声で鳴き、額が出っ張って見える。



カワセミ P14 No.143
水辺の宝石といわれるコバルトブルーの美しい鳥。



ハシボソガラス P14 No.251
ガーガーと濁った声で鳴き、額が出っ張って見えない。



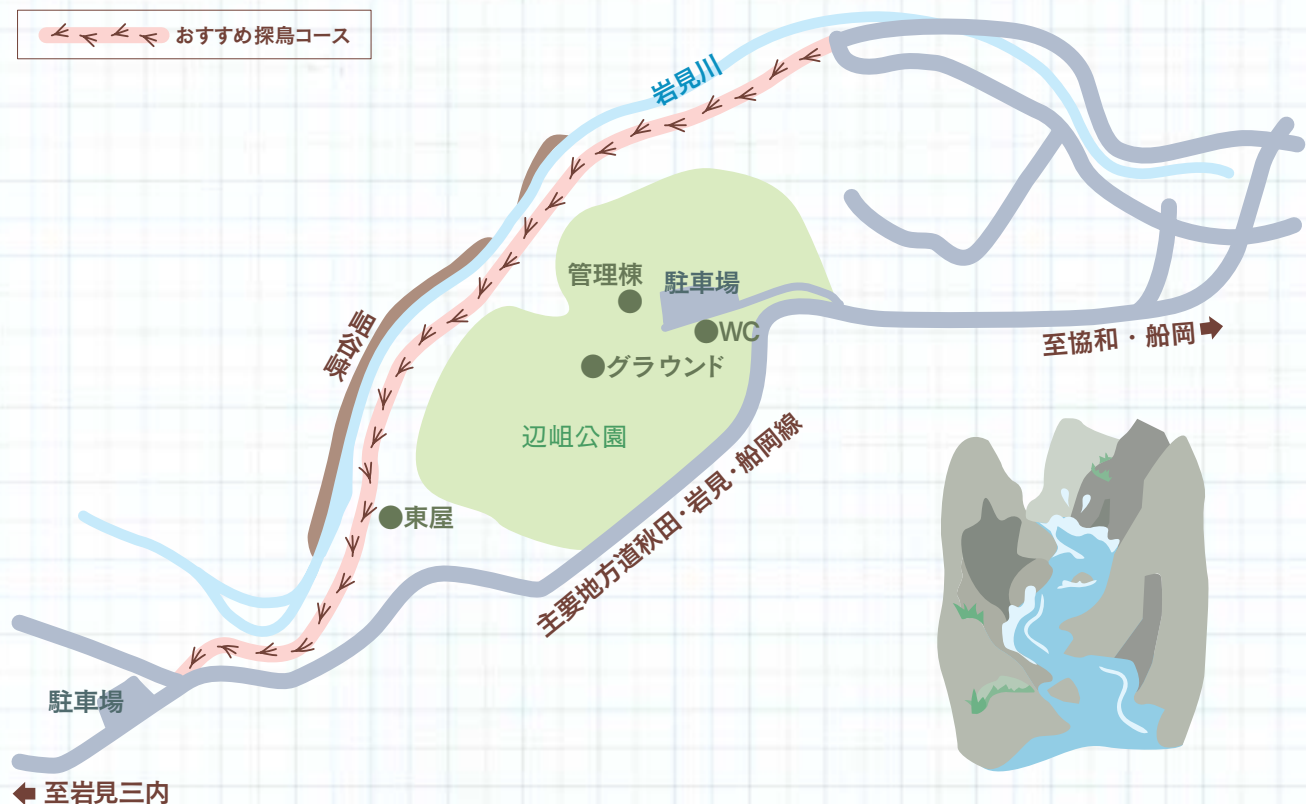
カルガモ P13 No.034
一年中観察され繁殖期にはヒナも観察される。



キジ P13 No.073
日本の国鳥。緑色の胸に長く美しい尾羽が特徴。



辺岨公園周辺(岨谷峡)の野鳥



深山の清流・岨谷峡

岩見川上流にある岨谷峡の両岸は巨岩が屏風のようにそびえ立ち、岩はだから生えた松やモミジなどが見られ、紅葉時の景観は見事です。

渓谷にすむ野鳥を観察する絶好のポイントです。



キセキレイ P14 No.158
溪流で観察されるセキレイの仲間。



ヤマセミ P14 No.140
バンクっぽい髪型が特徴のカワセミの仲間。



ミサゴ P13 No.055
魚好きの猛禽。



カワガラス P14 No.171
水生昆虫をエサとしています、泳げません。

高尾山の野鳥



風光明媚な探鳥地・高尾山

標高380mの山頂からは、雄物川をはじめ豊かな田園風景を一望でき、春にはカタクリの花が咲きほこります。

雄大な自然を背景に、大空に羽ばたく野鳥を観察してみませんか？



コゲラ P14 No.151
日本最小のキツツキ。



カイツブリ P13 No.003
水辺に“浮き巣”を作って繁殖します。



ホオジロ P14 No.220
さえずりが「一筆啓上つかまつりそうろう」と聞きなされる。



カケス P14 No.247
秋になるとドングリなどを“貯食”します。

野鳥のあれこれ

～バードウォッチングな一日～

まずはシジュウカラから

野鳥たちには、それぞれに好みの環境があります。同じように見えるカラスも、ハシブトガラスは山の方が好きですし、ハシボソガラスは海の方が好きです。またスズメは人家の少ない所ではあまり観察されません。しかしシジュウカラはかなり柔軟性があり、山の林・市街地・海岸の防風林などかなり広い地域に生息しています。更に体色が白と黒でわかりやすいことと、複数で行動することから非常に観察しやすい野鳥となっています。



シジュウカラ P14 No.216

千秋公園の野鳥の出現率

シジュウカラ	99.7%
スズメ	99.0%
ハシボソガラス	99.0%
ハシブトガラス	92.5%

左の表は、千秋公園での観察会のデータを集計したものです。シジュウカラの出現率はスズメやカラスよりも高く、今までの約300回の記録の中で、観察されなかったのはわずかに1回のみとなっています。

シジュウカラを見つけたら

シジュウカラの群れの中には、しばしば他の種類の鳥たちが混ざっていることがあります。このように複数の種類が一緒に行動する群れは“混群”と呼ばれ、シジュウカラの場合は、ヤマガラやヒガラのようにほぼ一年中一緒にいる種や、コガラやゴジュウカラのように冬期間だけ合流する種の他に、ルリビタキやサンコウチョウのように渡りの時期の少しの期間だけ合流する種と混群を形成します。



ヤマガラ P14 No.215

その鳥は何をしていますか？

シジュウカラやその他の鳥たちを見つけることができれば、今度はその鳥たちが何をしているかを観察してみましょう。“羽づくろい”、“求愛行動”、“なわばり宣言”等々さまざまな行動が観察できるはずです。



巣作り中のコゲラ
P14 No.151

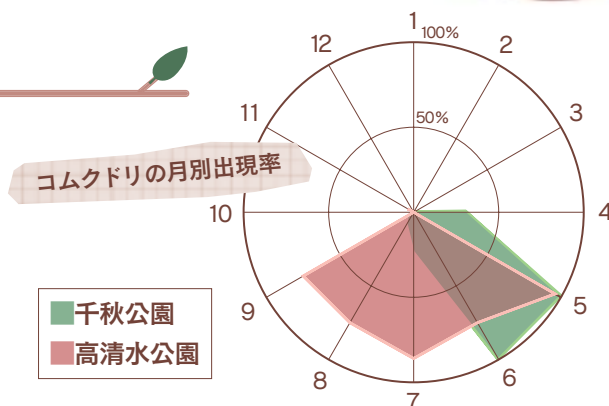


なわばり宣言中のオオヨシキリ
P14 No.197

そーっと見守って

右の図は、千秋公園と高清水公園でのコムクドリ
の出現率のグラフです。千秋公園の方が早い時期に
観察されなくなる原因は、“人通りの多さ”に起因する
ものと思われます。

野鳥たちは大変デリケートな生き物です。観察す
る時は、大きな声で彼らをビックリさせないように
“そーと”見守って下さい。



雨の日の鳥見

“ツバメが低く飛ぶと雨”ということわざがあります。これとは逆に“ツバメが高く
飛ぶと雨”とも言います。どちらが正しいのでしょうか？

雨が近くなり湿度が高くなると、これを感じた虫たちが低く飛ぶようになるため、
この虫たちをエサとしているツバメたちも低く飛行することになります。また、雨が
近くなり上空の気流が荒れてくると、普段は空のかなり高い所で生活しているアマツ
バメたちが降りてきます。しかしこの時の高さは、アマツバメにとってはかなり低い
位置なのですが、私たちにとってはまだまだ高い位置なので、“高く飛んでる”とい
うことになります。回答としては「どちらのことわざも正しい」ということになります。

ちなみにアマツバメはツバメの名前が付いていますが、ツバメの仲間ではなくど
ちらかといえばカワセミの方に近い位置に分類される野鳥です。



“三日月”の異名をもつ
アマツバメ P14 No.139

たとえ鳥が居なくても

野鳥が観察できない時は、野鳥の痕跡を探して見ましょう。これらの痕跡には
“足跡”、“フン”、“食痕”などの基本的にどの野鳥にも見られるものや、“モズのはやに
え^(注1)”や“フクロウのペリット^(注2)”などそれらの種に固
有のものなどさまざまですが、多くの場合その場所
に戻って来る可能性がありますので、その痕跡の場
所を覚えておいて、次にきた時にその周辺を注意し
て観察すると、思わぬ発見があるかもしれません。



カラスの足跡



モズの“はやにえ”

(注1) はやにえ…モズ類が大きいエサを木の枝などに突き刺す習性 (注2) ペリット…肉食の鳥たちが消化できずに吐き出した物 (不消化物)

空を覆うスズメ

スズメの頭部の色を“スズメ茶”または“スズメ色”と呼びます。そして夕焼けの赤が少しだ
け茶色があった時間を“『スズメ色』時”と呼びます。ほんのわずかな時間ですが、空がスズメ
の色で包まれるのです。

空が“スズメ色”に染まったらもう日が暮れます。暗くなる前に家に帰りましょう。



今回いろんな鳥に会えた人も会えなかった人も、
次回はより良い出会いがありますように……

さあ鳥を見に行こう!



下のリストは、秋田市で観察された鳥のリストと良く観察される季節です。

みなさんも、このリストを参考にして、鳥を見に行きませんか?

種名	春	夏	秋	冬	種名	春	夏	秋	冬	種名	春	夏	秋	冬
001 アビ				●	047 スズガモ				●	093 ミユビシギ	●		●	
002 シロエリオオハム				●	048 クロガモ				●	094 ヘラシギ	●		●	
003 カイツブリ	●	●	●	●	049 ビロードキンクロ				●	095 ツルシギ	●		●	
004 ハジロカイツブリ				●	050 シノリガモ				●	096 アオアシシギ	●		●	
005 ミミカイツブリ				●	051 ホオシロガモ				●	097 クサシギ				●
006 アカエリカイツブリ				●	052 ミコアイサ				●	098 タカブシギ	●		●	
007 カンムリカイツブリ				●	053 ウミアイサ				●	099 キアシシギ	●		●	
008 オオミズナギドリ				迷行	054 カワアイサ				●	100 イソシギ		●		
009 クロコシロウミツバメ				迷行	055 ミサゴ		●			101 ソリハシシギ	●		●	
010 カワウ				●	056 ハチクマ		●			102 オオソリハシシギ	●		●	
011 ウミウ				●	057 トビ	●	●	●	●	103 チュウシャクシギ	●		●	
012 ヒメウ				●	058 オジロワシ				●	104 ヤマシギ				●
013 サンカノゴイ				●	059 オオワシ				●	105 タシギ				●
014 ヨシゴイ		●			060 オオタカ	●	●	●	●	106 アオシギ				●
015 ミゾゴイ		●			061 ツミ	●	●	●	●	107 セイタカシギ	●		●	
016 ゴイサギ	●	●	●		062 ハイタカ	●	●	●	●	108 アカエリヒレアシシギ	●		●	
017 ササゴイ		●			063 ノスリ	●	●	●	●	109 トウゾクカモメ				迷行
018 アカガシラサギ				迷行	064 サシバ		●			110 ユリカモメ				●
019 アマサギ		●			065 クマタカ	●	●	●	●	111 セグロカモメ				●
020 ダイサギ				●	066 ハイイロチュウヒ				●	112 オオセグロカモメ				●
021 チュウサギ				●	067 チュウヒ				●	113 ワシカモメ				●
022 コサギ				●	068 ハヤブサ				●	114 シロカモメ				●
023 カランラサギ				迷行	069 チゴハヤブサ		●			115 カモメ				●
024 アオサギ	●	●	●	●	070 コチョウゲンボウ				●	116 ウミネコ	●	●	●	●
025 コクガン				●	071 チョウゲンボウ	●	●	●	●	117 アジサシ	●		●	
026 マガン				●	072 ヤマドリ	●	●	●	●	118 コアジサシ	●		●	
027 ヒシクイ				●	073 キジ	●	●	●	●	119 シロアジサシ				迷行
028 ハクガン				●	074 タンチョウ				迷行	120 ウミガラス				●
029 オオハクチョウ				●	075 マナヅル				迷行	121 ハシブトウミガラス				●
030 コハクチョウ				●	076 クイナ				●	122 マダラウミスズメ				●
031 ツクシガモ				迷行	077 ヒクイナ		●			123 ウミスズメ				●
032 オシドリ		●			078 バン		●			124 エトロフウミスズメ				迷行
033 マガモ				●	079 オオバン		●			125 ウミオウム				迷行
034 カルガモ	●	●	●	●	080 コチドリ		●			126 キジバト	●	●	●	●
035 コガモ				●	081 イカルチドリ		●			127 アオバト		●		
036 トモエガモ				●	082 シロチドリ		●			128 ジュウイチ		●		
037 ヨシガモ				●	083 メダイチドリ	●		●		129 カッコウ		●		
038 オカヨシガモ				●	084 ムナグロ	●		●		130 ツツドリ		●		
039 ヒドリガモ				●	085 ダイゼン	●		●		131 ホトトギス		●		
040 アメリカヒドリ				●	086 ケリ		●			132 トラフズク		●		
041 オナガガモ				●	087 タゲリ				●	133 コミズク				●
042 シマアジ				●	088 キョウジョシギ	●		●		134 コノハズク		●		
043 ハシビロガモ				●	089 トウネン	●		●		135 アオバズク		●		
044 ホシハジロ				●	090 ハマシギ	●		●		136 フクロウ	●	●	●	●
045 オオホシハジロ				●	091 コオバシギ	●		●		137 ヨタカ		●		
046 キンクロハジロ				●	092 オバシギ	●		●		138 ハリオアマツバメ		●		

※「迷行」の鳥は迷行記録のため、普段は観察されません。

種名	春	夏	秋	冬
139 アマツバメ	●			
140 ヤマセミ	●	●	●	●
141 ヤマショウビン	迷行			
142 アカショウビン	●			
143 カワセミ	●	●	●	●
144 ブッポウソウ	●			
145 ヤツガシラ	迷行			
146 アリスイ	●		●	
147 アオゲラ	●	●	●	●
148 クマゲラ	迷行			
149 アカゲラ	●	●	●	●
150 オオアカゲラ	●	●	●	●
151 コゲラ	●	●	●	●
152 ヤイロチョウ	迷行			
153 ヒバリ	●			
154 ショウドウツバメ	●		●	
155 ツバメ	●			
156 コシアカツバメ	●			
157 イワツバメ	●			
158 キセキレイ	●			
159 ハクセキレイ	●	●	●	●
160 セグロセキレイ	●	●	●	●
161 ビンズイ	●			
162 ムネアカタヒバリ	迷行			
163 タヒバリ	●		●	
164 サンショウクイ	●			
165 ヒヨドリ	●	●	●	●
166 チゴモズ	●			
167 モズ	●	●	●	●
168 アカモズ	●			
169 キレンジャク				●
170 ヒレンジャク				●
171 カワガラス	●	●	●	●
172 ミソサザイ	●	●	●	●
173 カヤクグリ				●
174 コマドリ	●			
175 ノゴマ	●		●	
176 コルリ	●			
177 ルリビタキ				●
178 ジョウビタキ	●		●	
179 ノビタキ	●		●	
180 ハシゲロヒタキ	迷行			
181 イソヒヨドリ	●	●	●	●
182 ヒメイソヒヨ	迷行			
183 トラツグミ	●			
184 マミジロ	●			

種名	春	夏	秋	冬
185 カラアカハラ	迷行			
186 クロツグミ	●			
187 アカハラ	●			
188 シロハラ				●
189 マミチャジナイ	●		●	
190 ツグミ				●
191 ヤブサメ	●			
192 ウグイス	●	●	●	●
193 オオセッカ	迷行			
194 エゾセンニュウ	●		●	
195 シマセンニュウ	●		●	
196 コヨシキリ	●			
197 オオヨシキリ	●			
198 キマユムシクイ	迷行			
199 メボソムシクイ	●			
200 エゾムシクイ	●			
201 センダイムシクイ	●			
202 キクイタダキ				●
203 マミジロキビタキ	迷行			
204 キビタキ	●			
205 ムギマキ	●		●	
206 オジロビタキ	迷行			
207 オオルリ	●			
208 サメビタキ	●		●	
209 エゾビタキ	●		●	
210 コサメビタキ	●			
211 サンコウチョウ	●			
212 エナガ	●	●	●	●
213 コガラ	●	●	●	●
214 ヒガラ	●	●	●	●
215 ヤマガラ	●	●	●	●
216 シジュウカラ	●	●	●	●
217 ゴジュウカラ	●	●	●	●
218 キバシリ	●	●	●	●
219 メジロ	●			

種名	春	夏	秋	冬
220 ホオジロ	●	●	●	●
221 コジュリン	●			
222 ホオアカ	●			
223 カシラダカ				●
224 ミヤマホオジロ				●
225 シマアオジ	迷行			
226 ノジコ	●			
227 アオジ	●			
228 クロジ				●
229 オオジュリン	●			
230 ユキホオジロ				●
231 アトリ				●
232 カワラヒワ	●			
233 マヒワ				●
234 ベニヒワ				●
235 オオマシコ				●
236 イスカ				●
237 ベニマシコ				●
238 ウソ				●
239 イカル	●			
240 シメ				●
241 ニュウナイスズメ	●		●	
242 スズメ	●	●	●	●
243 コムクドリ	●			
244 ホシムクドリ	迷行			
245 ムクドリ	●	●	●	●
246 コウライウグイス	迷行			
247 カケス	●	●	●	●
248 オナガ	迷行			
249 ホシガラス	迷行			
250 ミヤマガラス				●
251 ハシボソガラス	●	●	●	●
252 ハシブトガラス	●	●	●	●
253 ワタリガラス	迷行			

…この冊子に写真・イラストが載っている鳥



ゴジュウカラ P14 No.217



ムクドリ P14 No.245

ヒナを拾わないで



ツバメ P14 No.155

「鳥のヒナを拾ったのですが、どうしたらいいですか?」という問い合わせが多く寄せられます。しかし、そのほとんどが、まだ飛ぶ力がない巣立ち直後のヒナが地面にのみで、保護しなくてもよいケースです。

Q なぜ地面に落ちているヒナをよく見かけるのですか?

A 巣立ちしたばかりのヒナはうまく飛べません。だから枝から枝へ移るときなどに地面におりてしまうことがあるのです。

Q ヒナを見つけたときは、どうしたらよいのでしょうか?

A 近くに姿が見えなくても親鳥は必ずヒナのもとへもどって世話をします。人がヒナのそばにいと、かえって親鳥はヒナに近寄れません。そのままにしてそっと離れましょう。

Q ネコが近くにいて心配ですが…?

A 近くの木の枝先など、ネコが近寄れないところにとまらせてあげましょう。

Q 人が野鳥のヒナを育てることはできないのでしょうか?

A 私たちはヒナに飛び方や、食べもの、何が自分にとって危険なのか教えられません。自然の中で自立していけるように育てるといのはとても難しいことなのです。また、許可なく野鳥を飼うことは法律で禁止されています。

参考図書 ● 野鳥観察ハンディ図鑑「新・山野の鳥」(財)日本野鳥の会 ● 今日からはじめるバードウォッチング (財)日本野鳥の会

秋田市エコマップシリーズ⑦

秋田市野鳥マップ【平成18年度改訂版】

編集・発行 **秋田市環境部環境企画課**

〒011-0904 秋田市寺内蛭根三丁目24番3号
TEL 018-863-6632 FAX 018-863-6630
ホームページ <http://www.city.akita.akita.jp>
E-mail ro-evrc@city.akita.akita.jp

協力 **日本野鳥の会秋田県支部**

〒010-0803 秋田市外旭川八柳一丁目10番19号 伊藤方
TEL 018-868-8250 FAX 018-868-8250
ホームページ <http://homepage2.nifty.com/tantyo-akita/>
E-mail RXR02473@nifty.com

写真提供者◎石川壽一、伊藤信義、加藤正敏、
菊地直基、佐藤正生、佐藤悦紹、
浜谷まり子、三浦憲悦
(氏名五十音順、敬称略)